

平成27年度

事業報告書

学校法人 比治山学園

目 次

I 法人の概要

1	法人の目的	1
2	建学の精神	1
3	設置する学校・学部・学科等	1
4	法人の沿革	2
5	法人の組織図	6
6	役員・評議員の状況	7
7	学生・生徒・園児数	9
8	教職員数	11
9	校地・校舎の状況	11

II 事業の概要

1	主要事業の概要	12
2	入試（28年度入学）に関する状況	35
3	就職・進学に関する状況	37
4	施設・設備の整備に関する状況	38

III 財務の概要

1	平成27年度決算の概要	39
2	旧計算書類による推移	42
3	財務比率	45
4	寄付金の状況	48

I 法人の概要

1 法人の目的

本法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、悠久不滅の生命の理想に向かって精進する豊かな愛情と科学的知性をそなえた心身共に健康な人間を育成することを目的とする。

2 建学の精神・理念

「～親心に応えて～ 悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」

建学の精神・理念は、広島昭和高等女学校(昭和14年設置)第三代国信玉三校長の教育理念に基づくもので、人間の生命の尊厳性と永遠性を基底として、現在を生きる私たち人間の生命は、久遠の過去から連綿と現在に至っていることに感謝し、これを未来永劫に向上発展させるべく、現在を精一杯生きるように精進する人間を育てたいという願いを表すものです。

3 設置する学校・学部・学科等

設置学校名	研究科・学部・学科等
比治山大学	大学院 現代文化研究科 現代文化専攻 臨床心理学専攻
	現代文化学部 言語文化学科 マスコミュニケーション学科 社会臨床心理学科 子ども発達教育学科 子ども発達教育専攻科 子ども発達教育専攻
	健康栄養学部 管理栄養学科
比治山大学短期大学部	幼児教育科 総合生活デザイン学科 美術科 専攻科 美術専攻 栄養専攻(2年制)
比治山女子高等学校	全日制課程 普通科
比治山女子中学校	
比治山大学短期大学部附属幼稚園	

4 法人の沿革

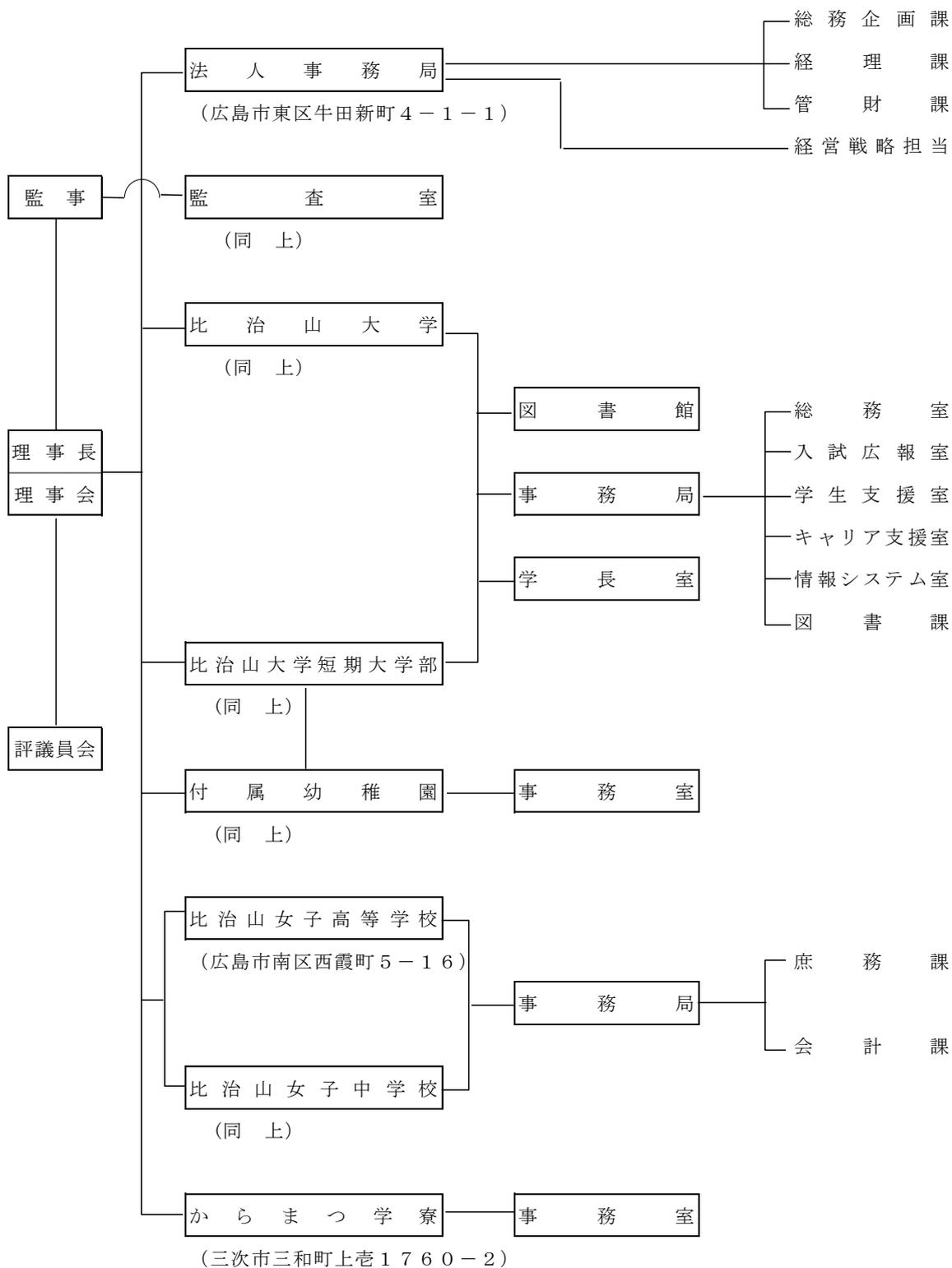
年 月 日	概 要
昭和14年 3月18日	財団法人広島昭和高等女学校設立認可
4月15日	広島文理科大学・同高等師範学校の教育実習校として広島昭和高等女学校発足
昭和16年 12月16日	財団法人広島昭和学園に改称
昭和18年 6月18日	校名を比治山高等女学校に改称
昭和22年 4月 1日	学制改革により、比治山女子中学校併設
昭和23年 5月 3日	学制改革により、比治山女子高等学校設置
昭和24年 3月31日	比治山高等女学校閉校
昭和26年 3月10日	私立学校法制定により、財団法人広島昭和学園を学校法人比治山学園に改称
昭和41年 4月 1日	比治山女子短期大学開学、国文科設置 (S41. 1. 25 認可)
昭和42年 4月 1日	比治山女子短期大学家政科・美術科設置 (S42. 1. 23 認可)
昭和43年 4月 1日	比治山女子短期大学付属幼稚園開園 (S42. 12. 13 認可) 比治山女子短期大学学生入学定員 (家政科100) 変更 (S42. 12. 28 届出受理)
昭和45年 4月 1日	比治山女子短期大学幼児教育科設置 (S45. 1. 21 認可)
昭和49年 1月 8日	衣料管理士養成大学として認可
4月 1日	比治山女子短期大学家政科専攻課程 (家政専攻・被服専攻) 設置 (S49. 1. 23 設置受理)
7月 1日	広島県双三郡三和町上壱に「からまつ学寮」開設
昭和51年 4月 1日	比治山女子短期大学学生入学定員変更 (S50. 12. 3 届出受理) (国文科150, 幼児教育科80, 家政科家政専攻120)
昭和53年 3月 9日	比治山女子短期大学幼児教育科が保母養成施設として指定
昭和57年 4月 1日	比治山女子短期大学女性文化研究センター設立
昭和60年 4月 1日	比治山女子短期大学学生入学定員変更 (S59. 12. 22 届出受理) (国文科200, 幼児教育科100, 美術科70) 比治山女子短期大学専攻科 (国文専攻10, 幼児教育専攻10) 設置 (S59. 12. 27 届出受理)
昭和62年 12月17日	レクリエーション指導者養成大学として認定
平成 3年 4月 1日	比治山女子短期大学 期間を付した入学定員の増加 (国文科30, 家政科家政専攻35・同被服専攻5, 美術科20) (H2. 12. 21 認可)
平成 6年 4月 1日	比治山大学開学、現代文化学部設置 (H5. 12. 21 認可) (言語文化学科 日本語文化専攻75・英語文化専攻35, コミュニケーション学科80) 比治山女子短期大学家政科 (家政専攻・被服専攻) を生活学科 (生活科学専攻・生活文化専攻) に名称変更 (H5. 8. 6 認可)

年 月 日	概 要
平成 6 年 4 月 1 日	比治山女子短期大学国文科学学生募集停止
平成 8 年 3 月 3 1 日	比治山女子短期大学専攻科国文専攻廃止
7 月 3 1 日	比治山女子短期大学国文科廃止
平成 9 年 4 月 1 日	比治山女子短期大学専攻科（幼児教育専攻）学位授与機構認定
平成 1 0 年 4 月 1 日	比治山大学大学院現代文化研究科（ 修士課程 ）設置（H9. 12. 19 認可） （言語文化専攻 8 ・ コミュニケーション専攻 6 ） 比治山女子短期大学を比治山大学短期大学部に名称変更 （H9. 11. 14 認可） 比治山女子短期大学附属幼稚園を比治山大学短期大学部附属幼稚園に名称変更
平成 1 2 年 4 月 1 日	比治山大学・比治山大学短期大学部を男女共学化 比治山大学短期大学部生活学科の専攻（生活科学専攻・生活文化専攻）学生募集停止 比治山女子高等学校の収容定員（1, 200→870）変更 （H11. 7. 13 学則変更認可） 比治山大学短期大学部臨時的定員の廃止（H11. 7. 28 認可） （生活学科生活科学専攻 35 ・ 生活文化専攻 5, 美術科 10） 比治山大学短期大学部臨時的定員の延長（H11. 7. 28 認可） （美術科の臨定 10 人を毎年度 2 人減→H16 年度 0 人） 比治山大学の恒常的定員化（H11. 7. 28 認可） （英語文化専攻 40, コミュニケーション学科 10） （編入学定員 日本語文化専攻 13→10, 英語文化専攻 7→10 コミュニケーション学科 10）
平成 1 4 年 4 月 1 日	比治山大学短期大学部専攻科（美術専攻 7）設置 （H13. 12. 20 届出受理）
平成 1 5 年 3 月 3 1 日	比治山大学短期大学部生活学科の専攻（生活科学専攻・生活文化専攻）廃止（H15. 7. 25 届出）
4 月 1 日	比治山大学短期大学部附属幼稚園の収容定員（240→200）変更 （H15. 1. 6 園則変更認可）
1 0 月 2 4 日	学校法人比治山学園寄附行為変更届出（新学科及び学科名称変更）
平成 1 6 年 3 月 1 1 日	学校法人比治山学園寄附行為変更認可（私立学校法の改正による届出事項の制定など）
4 月 1 日	比治山大学短期大学部生活学科を総合生活デザイン学科に名称変更 （H15. 4. 28 学則変更届出受理） 比治山大学の収容定員の増加（H15. 7. 31 学則変更認可） （入学定員 240→300 収容定員 1, 020→1, 260）
平成 1 6 年 4 月 1 日	比治山大学現代文化学部を改組（H15. 8. 26 届出受理） （地域文化政策学科 60, マスコミュニケーション学科 60, 社会臨床心理学科 60 設置）

年 月 日	概 要
平成16年 4月 1日	比治山大学現代文化学部コミュニケーション学科学生募集停止 比治山大学大学院現代文化研究科附属心理相談センター設置
平成17年 3月29日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科「栄養教諭二種免許状」課程認定
4月 1日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科栄養士養成系列設置 比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科が栄養士養成施設として指定 (H16. 11. 16) (厚生労働省) 比治山大学短期大学部専攻科 (美術専攻) 収容定員変更 (入学定員7→15) (H16. 12. 13 学則変更届出受理)
平成18年 2月28日	学校法人比治山学園寄附行為変更認可 (私立学校法の改正による学校法人制度の改善など)
4月 1日	比治山大学大学院現代文化研究科を改組 (H17. 6. 7 届出) (言語文化専攻8→現代文化専攻9 コミュニケーション専攻6→臨床心理学専攻5) 比治山大学大学院現代文化研究科言語文化専攻, コミュニケーション専攻学生募集停止
4月20日	比治山大学大学院現代文化研究科臨床心理学専攻が (財) 日本臨床心理士資格認定協会の第1種大学院に指定
平成19年 3月31日	比治山大学大学院現代文化研究科コミュニケーション専攻廃止 (H19. 5. 15 届出)
4月 1日	比治山大学短期大学部専攻科 (栄養専攻8) 設置 (2年制) 同専攻科独立行政法人大学評価・学位授与機構認定 (H19. 2. 16) 同専攻科4年制栄養士養成施設として指定 (H19. 2. 22) (厚生労働省)
平成21年 3月31日	比治山大学大学院現代文化研究科言語文化専攻廃止 (H21. 3. 31 届出) 比治山大学現代文化学部コミュニケーション学科廃止 (H21. 5. 15 届出)
4月 1日	比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科設置 (H20. 10. 31 認可) 比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科が保育士養成施設として指定 (H21. 3. 27) (厚生労働省) 比治山大学現代文化学部地域文化政策学科学生募集停止
平成22年 4月 1日	比治山大学短期大学部専攻科 (美術専攻) 学位授与機構認定 (H22. 2. 15 独立行政法人大学評価・学位授与機構認定)
平成23年 4月 1日	比治山大学現代文化学部言語文化学科の専攻 (日本語文化専攻・英語文化専攻) 廃止 (H23. 3. 24 届出) 比治山大学短期大学部専攻科幼児教育専攻学生募集停止の上廃止 (H23. 3. 29 廃止届出)

年 月 日	概 要
平成25年 1月30日	比治山大学子ども発達教育専攻科教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の専攻科の課程として認定
2月 1日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科の栄養士養成施設の内容変更（学生定員 40→60）承認（厚生労働省）
4月 1日	比治山大学子ども発達教育専攻科(子ども発達教育専攻)(10)設置 (H25. 2. 25 学則変更届出) 比治山大学現代文化学部地域文化政策学科廃止（25. 3. 26 届出） 比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科の栄養士養成系列（40）を栄養士養成コース（60）に、総合系列群（130）を生活創造コース（110）に変更
平成25年10月31日	比治山大学健康栄養学部設置に伴う寄附行為変更認可
平成26年 4月 1日	比治山大学健康栄養学部管理栄養学科設置（H25. 10. 31 認可） 比治山大学健康栄養学部が管理栄養士及び栄養士養成施設として指定（H26. 3. 26）（厚生労働省・文部科学省） 比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科収容定員変更 （入学定員 170→100 収容定員 340→200）（H25.12.5 学則変更届出）
平成27年 4月 1日	比治山大学短期大学部専攻科（栄養専攻8）学生募集停止 (H27.3.23 文部科学省 報告) (H27.3.30 大学評価・学位授与機構 報告)
平成28年 4月 1日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科 栄養士養成コース 学生募集停止

5 法人の組織図



6 役員・評議員の状況（平成27年5月1日現在）

- (1) 理事 定数 7～9名, 現員 9名, 任期 4年
 監事 定数 2名, 現員 2名, 任期 4年

役名	氏名	常勤 非常勤	備考
理事長	間所了	非常勤	弁護士
理事長職務 代理者	高木勇藏	非常勤	医療法人社団高輪会高木歯科理事長
専務理事	木谷健	常勤	比治山学園法人事務局長
理事	二宮皓	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部学長
理事	奥田孝憲	常勤	比治山女子中学・高等学校校長
理事	赤木昌彦	非常勤	元比治山女子中学・高等学校校長
理事	伊藤清子	非常勤	比治山大学同窓会権の樹会会員代表
理事	小原健太郎	非常勤	広島ガス株式会社執行役員
理事	池田美津子	非常勤	比治山女子中学・高等学校同窓会会員代表
監事	海老澤孝公	非常勤	海老澤孝公税理士事務所所長
常務監事	岡本茂信	非常勤	

(2) 評議員 定数 20～25名, 現員 25名, 任期 4年

選出区分	氏名	常勤 非常勤	備考
法人職員	迫垣内 裕	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部副学長
〃	松永 哲朗	常勤	比治山大学現代文化学部長
〃	森 修也	常勤	比治山大学短期大学部短大部長
〃	松岡 寛昭	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部事務局長
〃	内山 晴夫	常勤	比治山女子中学・高等学校副校長
〃	中林 良二	常勤	比治山女子中学・高等学校教頭
〃	木下 隆	常勤	比治山女子中学・高等学校事務局長
〃	羽地 波奈美	常勤	比治山大学短期大学部附属幼稚園園長
卒業生	池田美津子	非常勤	比治山女子中学・高等学校同窓会会員代表
〃	延本真栄子	非常勤	比治山女子中学・高等学校同窓会会長
〃	伊藤 清子	非常勤	比治山大学同窓会権の樹会会員代表
〃	佛崎ひとみ	非常勤	比治山大学同窓会権の樹会会長
理事	二宮 皓	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部学長
〃	奥田 孝憲	常勤	比治山女子中学・高等学校校長
〃	高木 勇藏	非常勤	医療法人社団高輪会高木歯科理事長
保護者	西本 誠喜	非常勤	比治山大学後援会会長
〃	※ ₁ 土屋勝豊	非常勤	比治山大学後援会副会長
〃	※ ₂ 江草博美	非常勤	比治山女子中学・高等学校PTA会長
〃	柳原 邦典	非常勤	比治山女子中学・高等学校PTA副会長
〃	河野 純	非常勤	(H27.6.10 PTA会長就任) 比治山女子中学・高等学校PTA副会長
〃	※ ₃ 矢野彩湖	非常勤	比治山大学短期大学部附属幼稚園保護者会会長
学識経験者	赤木 昌彦	非常勤	元比治山女子中学・高等学校校長
〃	古居 正武	非常勤	税理士
〃	新見 博三	非常勤	元比治山大学事務局長
〃	小原 健太郎	非常勤	広島ガス株式会社執行役員

(注) ※の評議員は、平成27年5月1日以降に交代した。後任評議員については次のとおり。

選出区分	氏名	常勤 非常勤	備考
保護者	※ ₁ 馬渡 功一	非常勤	比治山大学後援会副会長
保護者	※ ₂ 榎本 真由美	非常勤	比治山女子中学・高等学校PTA副会長
保護者	※ ₃ 梅平 みづほ	非常勤	比治山大学短期大学部附属幼稚園保護者会会長

7 学生・生徒・園児数（平成27年5月1日現在）

(1) 比治山大学 現代文化学部

学 科 名 等	入学 定員	編入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員		
					男子	女子	
言語文化学科	120	5	130 [4]	490	479	257	222
マスコミュニケーション学科	60	3	46 [4]	246	173	98	75
社会臨床心理学科	60	5	62 [2]	250	258	132	126
子ども発達教育学科	70	10	74 [0]	300	318	122	196
計	310	23	312 [10]	1,286	1,228	609	619

[]は編入学者で外数

(2) 比治山大学 健康栄養学部

学 科 名 等	入学 定員	編入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員		
					男子	女子	
管理栄養学科	70	—	78 [-]	140	131	13	118
計	70	—	78 [-]	140	131	13	118

(3) 比治山大学 専攻科

学 科 名 等	入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員	
				男子	女子
子ども発達教育専攻	10	0	10	0	0
計	10	0	10	0	0

(4) 比治山大学 大学院 現代文化研究科

研究科名等	入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員			
				男子	女子		
現代文化研究科	現代文化専攻	9	0	18	2	1	1
	臨床心理学専攻	5	4	10	8	4	4
計	14	4	28	10	5	5	

(5) 比治山大学短期大学部

学 科 名 等	入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員			
				男子	女子		
幼児教育科	100	115	200	212	10	202	
総合生活デザイン学科	100	117	200	234	5	229	
内 訳	栄養士養成コース	60	41	120	82	2	80
	生活創造コース	40	76	80	152	3	149
美術科	70	58	140	142	10	132	
計	270	290	540	588	25	563	

(6) 比治山大学短期大学部 専攻科

専攻名	入学定員	入学者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
美術専攻	15	11	15	12	0	12
栄養専攻（2年制）	8	2	16	7	2	5
計	23	13	31	19	2	17

(7) 比治山女子高等学校

区分	入学定員 (募集人員)	入学者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
高等学校 全日制普通科	290 (215)	236	870	687	—	687

(8) 比治山女子中学校

区分	入学定員 (募集人員)	入学者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
中学校	250 (140)	61	750	243	—	243

(9) 比治山大学短期大学部附属幼稚園

区分	入学定員	入園者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
幼稚園	70	52	200	137	75	62

8 教職員数（平成27年5月1日現在）

(1) 教育職員

区 分	専 任							非常勤
	教授	准教授	講 師	助 教	実験助手 技術助手	教 諭	計	
大 学	38	13	8		4		63	※ ₃ 167
短 期 大 学 部	13	4	8	2	2		29	※ ₃ 146
高 校						※ ₁ (5)39	39	21
中 学 校						※ ₁ (7)24	24	12
幼 稚 園						※ ₂ (3)8	8	5
計	51	17	16	2	6	(15)71	163	—

※₁ () は、臨時採用教員で内数、※₂ () は、期限付き専任教員で内数
 ※₃ 述べ人数

(2) 事務職員

区 分	専 任					臨時職員
	事務職員	司 書	実習助手	その他	計	
法 人 事 務 局	4				4	
監 査 室					0	
学 長 室	3				3	
大学・短期大学部 事 務 局	34	2			36	9
大学・短期大学部					—	20
中学・高校事務局	7		1	1	9	
付 属 幼 稚 園						1
計	48	2	1	1	52	30

9 校地・校舎の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	土 地	建 物	備 考
牛田キャンパス (広島市東区牛田新町)	95,158.94 m ²	37,263.08 m ²	法人事務局, 大学, 短大
	5,416.00 m ²	1,613.74 m ²	幼稚園
霞キャンパス (広島市南区西霞町)	19,423.15 m ²	23,042.08 m ²	中学, 高校
研修施設 (三次市三和町)	37,170.00 m ²	3,032.31 m ²	からまつ学寮
計	157,168.09 m ²	64,951.21 m ²	

II 事業の概要

1 主要事業の概要

(1) 法人事務局

ア 法人事務局の使命（ミッション）

教育基本法及び学校教育法に従い、悠久不滅の生命の理想に向って精進する豊かな愛情と科学的知性をそなえた心身共に健康な人間を育成するため、理事会のガバナンス機能の向上等を図り、評議員会と併せてその活性化を進める。また、学校法人として、各部門の責任感を持った運営を促進しながら、同時に、学校法人として統一感を持ったマネジメント機能の向上を図る。

イ 法人事務局のビジョン

- ・ 理事会が、そのガバナンス機能を適切に発揮し、活性化している。
- ・ 評議員会が、諮問機関としての役割を適切に発揮し、活性化している。
- ・ 各部門が、部門ごとの責務を自覚したマネジメントが実現しているとともに、学校法人として統一感・一体感を持ったマネジメント機能が向上している。
- ・ 開学80周年記念事業が円滑に実施され、新たに90周年に向けた取組がスタートしている。

ウ 事業の概要

項目	事業計画	実施状況	摘要
理事会・評議員会の活性化	1 理事会・評議員会の開催	年間計画に基づき、理事会 7 回、評議員会 4 回開催した。	<実出席率> 理事会 93.7% 評議員会 76.0%
	2 理事研修の実施	理事会のガバナンス強化や活性化を目的に、理事研修会を6回（外部研修会 2 回含む）実施した。 開催月、テーマは次のとおり。 ①6月「地方創生について」 ②7月「大学法人の経営・財務をめぐる環境変化と対応について」 ③10月「私立学校法改正と理事会・理事長の権限について」 ④12月「学内運営組織について」 「学校法人会計と比治山学園等の財務状況について」 （外部研修会） ①6月 NEW EDUCATION EXPO2015 サテライトセミナー参加 「明日の日本を創る教育改革」「教育改革の現在と今後」 ②10月 広島県大学フォーラムに参加 「今、この国の教育の最大の問題は何か？～高大連携、教育改革、アクティブラーニング」「高大連携の可能性」	理事の出席率 91.6%

	3 予算執行状況の進捗管理	理事会及び評議員会において、予算執行状況及び事業計画の進捗について報告した。	<報告実施月> 理事会 12月 評議員会 2月
	4 理事・評議員必携の作成	理事会及び評議員会の活性化の一途として、理事・評議員必携を作成し、理事・評議員に配付した。	
マネジメント機能の向上	1 比治山学園中期計画の策定	学園全体の中期計画（平成28年度から平成33年度までの6年間）を策定し、各部門の6年後の目指す姿について明確にした。 また、役員及び教職員の共通理解を図った。	
	2 中期財政計画の策定	中期計画の目標の達成と学園運営の更なる改善を図るため、5つの方針に沿って中期財政計画を策定した。	
	3 施設設備整備計画等の策定	比治山学園長期施設設備整備基本構想及び同基本計画を策定した。	
	4 機能強化を図る体制の構築	経営改革を迅速に着実に進めるため、経営方針・連絡調整を行う部署（経営戦略担当）を設置した。	
	5 マイナンバー制度への対応	・特定個人情報等の適正な取扱いの確保について組織として取り組むため、「特定個人情報の取扱いに関する方針」を定めた。 ・個人番号及び特定個人情報の取扱いについて、「学校法人比治山学園個人番号及び特定個人情報取扱規程」を制定した。	
	6 理事長ミーティングの実施	理事長と大学事務局管理職のコーヒーマーケティング、大学役職者（教員）とのマーケティングを実施し、大学の置かれている現状や課題を共有し、意思疎通を図った。	
学園創立80周年記念事業	平成31年に学園創立80周年を迎えるに当たり、計画的な効率的事業を実施するため、第1回の「比治山学園創立80周年記念事業準備委員会」を開催した。		
寄付金募集の取組み	学園の教育環境の充実・発展に向けた資金の確保のため、役員、教職員、保護者（大学等）及び同窓生（中高）に寄付金募集を実施した。	<H27年度実績> 件数 528件 金額 4,356,000円	

(2) 比治山大学, 比治山大学短期大学部

ア 大学・短期大学部の使命（ミッション）

建学の精神・理念のもとに、現代社会の人間生活や文化などに関わる諸課題をグローバルな視点から探究するとともに、文化の継承・発展・創造を实践する姿勢をもち、生命の尊厳と永遠性という視野から主体的に学び続け、新しい人間価値を創造できる人材の育成を通して、活力に満ちた豊かな地域社会と国際平和の実現に寄与することを使命とする。

イ 大学・短期大学部の基本方針

(ア) 教育方針

学生視点に徹し、学生一人ひとりの豊かな個性の伸長を図るとともに、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を基盤とした「全人教育」を推進する。

(イ) 研究活動方針

グローバルな視点に立ち、地域社会の発展と安定に貢献できる創造的な研究を推進し、その成果を教育及び社会貢献活動に活かす。

(ウ) 社会貢献活動方針

教員の専門分野における教育研究活動の成果を活用し、地域社会の発展に貢献する。

ウ 事業の概要

項目	事業計画	実施状況	摘要
I 学生視点に徹した教育を推進するための事業			
1 学生観の共有	教職員全員が、すべての学生がそれぞれ豊かな個性や内発的な自己成長欲求をもっていることを理解し、共有するとともに、すべての学生は、時代の担い手としてかけがえのない人材であり、また学習者として教職員と対等な関係にあるとする学生観を共有すべく、教職員の研修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修を2回実施。 第1回 1日間(9月) 第2回 2日間(3月) ※職場のメンタルヘルス、学習科学の知見を活かした学びの支援、著作物の引用と盗用に関する講演、AP事業の活動報告・APセミナー（公開）、食育への認識向上のための研修、UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）構築に関するアンケート報告などに取り組んだ。 ・授業改善学生モニター意見交換会報告を、学生の生の意見を真摯に受けとめ、すべての学生は学習者として教職員と対等の関係にあるとする学生観の共有に資するものとして、9月・3月に実施。 	
2 学生一人ひとりの多面的・縦断的な実態把握を踏まえた教育と学生支援	①入学前教育プログラムの見直しと充実	<ul style="list-style-type: none"> ・AO 入試合格者に対して、基礎学修力の育成と入学までの学修意識の涵養を図るため入学前プログラムを実施。 ・内容については、各学科主導による専門科目学修につながるもので構成。随時、発展的に見直しを図る。 	

	<p>②基礎学習力の育成を目指す「初年次セミナー」の成果の検証結果を踏まえて、一層の充実を図る。同時に「基礎学力向上プログラム」の導入を早急に図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「初年次セミナー」で活用されているHIJIYAMA手帳の改訂。※「4×3の比治山力」、「学びのロードマップ」、「ワークシート(マイストーリー、マイチャレンジ、マイアプローチ)」、「社会人を意識したスキル」に関する情報を追加。 ・高校生活→大学生活→社会生活への円滑な接続とともに、自己の生き方や価値観形成を促すようにし、キャリア意識の早期の醸成にも資するよう企図。 	<p>HIJIYAMA手帳(改訂後)は平成28年度から全学生に配付</p>
	<p>③少人数教育、双方向型授業・体験型授業の一層の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から、主としてコア・アクティブ・ラーニング科目による「比治山型アクティブ・ラーニング」型授業を全学的に開始。 ・※「4×3の比治山力」という本学独自の汎用的能力の育成を目指す。 ・推進拠点として「アクティブ・ラーニング推進室」を開設。 ・※授業実践の交流プラットフォームとするとともに、必要な物品・消耗品を貸し出し。 	<p>平成27年度 重点事業</p> <p>授業改善と教育の質的転換</p> <p>学生の意欲保持し、確かな学びを保証するシステム構築</p>
	<p>④学生情報システム(Hi! Way)を活用した「学生ポートフォリオ」によって学習を可視化し、その活用を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生情報システム(Hi! Way)を学生自身による学修活動のPDCAサイクルの確立支援のため再構築。平成27年度後期から本格的な運用を開始。 ・このシステム活用促進のために「4×3の比治山力学修の手引2015」「Hi!wayシステム新機能の手引き」という冊子を作成・配付し、学生向けガイダンスを実施。 ・※「利用に関するアンケート(10月1日)」によると、「4×3の比治山力」と「成績の推移」の可視化が学修意欲の向上に役立っている。 	<p>平成27年度 重点事業</p> <p>授業改善と教育の質的転換</p> <p>学生の意欲保持し、確かな学びを保証するシステム構築</p>
	<p>⑤GPA制度の成果と課題を検証し、到達目標型学習システムに相応しい成績評価制度を検討すると同時にGPA制度の有効活用方策を探る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の検証のための可視化機能に、データとしてGPAを活用。 ・本学独自の奨学制度の応募条件の一部としてGPAを活用。 ・大学において、三者面談の対象となる者の要件にGPAを基準とするものを採用。 	

	⑥副専攻制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> より履修しやすくするために、従来の副専攻を見直して、国際コミュニケーション副専攻、心理学副専攻の二副専攻へ改変。 	
3 到達目標学習システムの導入と活用	卒業時に身につけるべき資質能力を到達目標として明確にし、その目標を達成するために体系的な教育課程を編成し、入学した学生全員が確実に到達できることを意図して到達目標型学習システムを導入する。その上で到達目標達成度評価（調査）を行い、システムの有効活用を図る。そのために到達目標型学習プログラムを一層明確化・強化し、開発されてきた履修モデルの活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 教学委員会や各専門委員会において、毎年度教育課程の編成や科目構成、科目担当教員の検証を継続実施。 この方向性をさらに堅実に継続するため、平成 27 年度の全学部・学科・コースの教育課程表の全科目にナンバリングを付し、学生便覧にカリキュラム・マップとともに明記。 ※これにより、学生が授業科目を適切に選択できるとともに、自らが蓄積してきた学びを体系的に把握することが可能となった。 	
4 健康栄養学部の教育体制づくり	管理栄養士国家試験対策の支援に積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士教育学習室を整備(1号館3階)。 管理栄養士指導センター設置 ※平成 27 年 3 月 27 日に管理栄養士指導センター規程を設け、臨地実習部会と国家試験指導部会を設置。 当初の計画を見直し、3 年次から業者模擬試験を導入することとした。 臨地実習部会においては、平成 28 年度から臨地実習が始まるので、要綱の作成・実習計画の作成などを行って円滑な臨地実習ができる体制を整備。 就職対策計画 平成 28 年度から就職活動がスタートする上で、就職活動をサポートしたり、就職先の確保のための広報活動をきめ細かく実施するために、2 人のキャリア参与到キャリア支援活動の委託契約を行い活動してもらう計画である。 	平成 27 年度 重点事業 健康栄養学部の教育体制づくり

II 学生の自己成長と人間力の形成を促す総合的學生支援体制の充実のための事業			
1 学習・生活・心身の健康等に関する個別相談支援体制の充実	学習サポートセンターの学習アドバイザーの活動を活性化し、ウエルネスセンター、さらにチューター制度を一層充実し、きめ細かい学習サポート等を行うと同時に個別相談支援体制を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習サポートセンターについて、図書館「Me+Library（みらいぶらりい）」に分室を置き、主に職員アドバイザー(英語担当)のもと、日常的なアドバイス活動を実施。夏季休暇には夏季講座(検定対策)や図書館企画講座(基礎力アップ)を企画・実施。 ※アドバイザーにはサポート日誌への記入を依頼し、必要に応じてチューター等と情報交換。 	
2 課外活動ボランティア等の活性化	課外活動、ボランティア等を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ◆「課外活動の活性化について」 ・サークル活動加入率増への取組 新入生のサークル勧誘を目的とした「hanaまつり」を入学式当日に、全新生が一堂に会する入学式会場で実施。 ・リーダートレーニング学友会執行部及び各課外活動団体幹部を対象にリーダートレーニングを年3回(A・B・C)実施した。 ※リーダートレーニングAは9月に学友会及び大学祭実行委員会を対象とし、平成27年度前半の総括及び今後の実施計画の見直しを行った。 リーダートレーニングBは2月初めに学友会及び大学祭実行委員会新旧役員を対象に実施し、平成27年度の総括及び平成28年度計画を立案した。 リーダートレーニングCは各課外活動団体幹部を対象として2月末に実施し、平成28年度のリーダーとして必要な知識や心構えについての理解を深めた。 ・支援的な援助 外部指導者(コーチ)を8団体8名を招聘した。ダンス部がフラワーフェスティバルに出場したり、放送研究会、吹奏楽、茶道部、天水太鼓などによる地域の行事等へのボランティア参加など、成果をあげている。 課外活動施設の整備については、トレーニングルームの機器を整備。 ◆「ボランティアの支援について」 市や県の社会福祉協議会から寄せられ 	平成27年度 重点事業 課外活動、ボランティア等を支援する

		た募集情報を Hi!way を利用して学生に周知し、個人ボランティアの参加呼びかけを行なった。 延べ 50 件の募集⇒115 人が活動	
3 キャリア形成・就職支援体制の充実・強化 ※関連 IV3「就職率の改善」	キャリア支援室及びキャリアセンターの機能を充実し、大学・短期大学部として戦略的・機動的に既卒学生も含めた就職支援を展開する。学内インターンシップの導入を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得取得講座 2 講座実施。 就職試験対策講座 5 講座実施。 卒業生との交流や就職先の開拓のため、「キャリアコミュニティ」発足。同窓会・後援会と連携し、「キャリアコミュニティ」への参加協力依頼。 資格取得のための経済支援を実施。 就職ガイダンス 14 回と県外合同説明会ツアー(ガイダンス 3 回)と全員面談を実施。※ガイダンスは、キャリア教育の講義と内容を精査・連携させて実施。 既卒学生への求人情報の提供を適宜実施。 学内インターンシップを実施。 参加：4 名 期間：2～4 日間 保護者との連携について、教育懇談会(年 2 回)・後援会会報誌(あまずだより年 2 回)で、キャリアセンターの活動について情報提供。 また、就職ガイドブックを教育懇談会で配付するとともに、大学の HP で関連サイトを紹介。 	「キャリアコミュニティ」への参加登録 67 名 <u>ガイダンス参加率(%)</u> 大学 ②⑥ 37.6 ②⑦ 42.2 短大 ②⑥ 30.4 ②⑦ 44.5
4 国際化ビジョンを計画的に執行	①グローバル化・国際化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆「ビジョン 1：海外留学促進」 説明会や留学報告会を充実させるとともに、海外研修プログラムの登録手続きを見直した (CAP 対象外とする、履修登録期間外での受付、担当者による派遣学生スクリーニングなど)。 中国研修地を開発(平成 28 年度に実施予定) UHH(ハワイ大学)を訪問し、平成 28 年度実施に向けて短期プログラムを開発。 カンボジア研修について、学科主任から学科の希望を聞き取り。 JASSO(日本学生支援機構)の海外研修派遣補助金申請を検討、平成 28 年度に申請を計画する。 UMAP(アジア太平洋大学交流機構)に参加。 	平成 27 年度 重点事業 国際化ビジョンを計画的に執行する

		<ul style="list-style-type: none"> ◆「ビジョン2：外国語教育充実」 <ul style="list-style-type: none"> ・共通教育英語クラスの少人数化を実施。 ・「外国語自己表現コンテスト」を実施 ・英語のみの授業やアカデミックライティングの授業を展開。 ・近畿大学「英語村」などの英語学習施設を視察し，新たな外国語教育について調査研究。 ◆「ビジョン3：学内国際化推進」 <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センター規程を策定。 ・シェアハウス等の宿舎を広島県の留学生宿舎対策を考慮しながら，継続的に検討。 ・学生チューター制度を，平成28年度以降に本格運用をめざして，平成27年度はボランティアで試行。 ・留学生入試は初年度授業料半額免除を実施したが，事前面談の方法などの課題は継続して検討。 ◆「ビジョン4：教職員の国際化」 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の比治山大学事務職員海外研修内規を策定。教職員への海外研修参加呼びかけを実施し，フィリピン研修に1名参加。 ・インジェ大学との共同研究企画のため，2名の教員を派遣。 ・教育現場の国際化について，オーストラリアから朝倉晴子氏を招聘し講演会を実施。 ・大学のグローバル化対応について，二宮皓学長によるSD研修会を実施。 ◆「ビジョン5：地域のグローバル化」 <ul style="list-style-type: none"> ・東区との連携事業「はだしのゲン英語紙芝居」を実施。 ◆「ビジョン6：グローバル時代就業力育成」 <ul style="list-style-type: none"> ・インジェ大学における海外インターンシップを実施。 ・留学生の就職支援は，インターンシップ，留学生就職担当者配置，求人情報提供，早期就職活動面談をキャリアセンターが実施。 ・広島県「大学提案型モデルプロジェクト」に参加し，国内外の教育機関と留学生政策について意見交換。 	
--	--	---	--

	<p>②留学生受け入れ体制を整備し、受け入れの拡大を図る。(前記①の再掲を含む。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿舎について、シェアハウスなどを広島県の留学生宿舎対策を考慮しながら、継続的に検討。 ・ 学生チューター制度構築に向け、平成27年度は学生ボランティアにより実施。 ・ 後援会のサポートで留学生と学生ボランティアとの日帰りバスツアーを実施。 ・ 英語版HPを見直し(教育課程・学生数と教員数・進路項目情報を追加)。 ・ 留学生初年度授業料半額免除を実施。 ・ 広島県の「大学提案型モデルプロジェクト」(編入学ルート, 日本語学校ルートの開拓)に採択され, ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会学大学と協定締結。 ・ 吉林華橋外国語学院, さくら日本語学校, ひかりアカデミー, VIMAS JSC(ベトナム投資・人材サービス株式会社), 国際ことば学院, 新宿日本語学校, 広島YMCA, 北陸大学, 広島工業大学専門学校を訪問し, 留学生政策について調査研究。 ・ UHH(ハワイ大学)を訪問し, 平成28年度実施に向けて短期プログラムを開発。 ・ 吉林華橋外国語学院を訪問し, 平成28年度に協定締結をめざして準備。 ・ 朝倉晴子氏をオーストラリアから招聘し, 講演会「外国語として日本語を教えるシドニーからの現場報告」を実施。 	
<p>5 後援会・同窓会との連携強化</p>	<p>後援会・同窓会との連携を強化し学園の一層の発展を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後援会による生活支援や課外活動支援の内容。 <ul style="list-style-type: none"> ① 生活支援：奨学金支援 前期3名計45万円 後期3名計45万円 ② 課外活動支援 クラブ引率費25万円 成績優秀団体(軟式野球部) へ5万円 その他, 各クラブの遠征バス代, 連盟費, 施設借用費など, 424万円 ・ 後援会長と半期ごとに協議の場を持ち, 大学の状況や学生の実態を報告することで, 予算案にその結果を反映。 	

6 ピアサポート制度の導入による学生参画型の支援体制の充実	ピアサポート制度を導入し、学生支援体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、ピア・サポートルームを開室。週2回の活動を自主的に実施。月に1度全体会を開いて、活動について振り返り。 ・翌年度からのピア・サポーター予定者を対象に養成セミナーを9月に、直前研修会を3月に実施。 	
III FDの充実のための事業			
1 全学的FDの充実	全学的FDをさらに充実して、教員の教育実践力の向上を図る。さらに教育の質の向上等の目的のためにFDのみならず教職員協働の考え方に基づいてSDについても積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修を2回実施。 第1回 1日間(9月) 第2回 2日間(3月) ※職場のメンタルヘルス、学習科学の知見を活かした学びの支援、著作物の引用と盗用に関する講演、AP事業の活動報告・APセミナー(公開)、UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)構築に関するアンケート報告などに取り組んだ。 教育実践力向上においてはAP事業、APセミナーを中心に学習科学の視点からの学び支援などにより取り組むことができた。教職協働の観点からは、SDとの合同研修として実施したことや、特にUI事業のパワーセッションにおける協働業務の実施により積極的な展開が行えた。 	
IV 社会貢献・連携活動を推進するための事業			
1 地域貢献活動の推進	全教員の研究分野の公開による地域貢献活動の推進を行う。	「比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研究ガイド」を作成、HPに掲載。	
2 地域連携の推進	地域連携を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターと地域連携センターを統合。 ※平成28年度より公開講座、研究公開の側面からの地域連携を進める。 センター統合に伴い、平成28年度に「生涯学習・地域連携センター便り」を発行配布することとした(4月発行・配布)。 ・広域大学知的財産アドバイザー訪問によるミニ講演勉強会、知財・地域連携に関する会合を毎月1回実施。 	平成27年度 重点事業 〔地域連携を推進する〕

V 基盤整備事業			
1 次期中期計画の策定	次期中期計画の策定に着手するとともに、大学、短大のミッションを再定義する。	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度までの中期総合プランを 1 年前倒しで完了させた。 新たに平成 28 年度から平成 33 年度までの 6 年間の中期計画を策定。 ※建学の精神を振り返り、ミッション、ビジョンを再定義し、個別の戦略、事業計画、予算規模、ロードマップを付したものとした。また、短期計画も策定済み。 	平成 27 年度 重点事業 次期中期計画の策定
2 財政基盤の確立	①外部資金の獲得	<ul style="list-style-type: none"> 補助金関係の情報収集に努め、補助金を獲得。 私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金額：10,696 千円（7 号館コンピュータ室）。 私立大学等経営強化集中支援事業補助金額：23,000 千円 科学研究費補助金獲得の取組 	採択件数(件) ②⑥⑦ 0 4 8
	②人件費や管理経費の抑制	<ul style="list-style-type: none"> 人件費支出の前年度比較： △59,524 千円 管理経費の前年度比較： △7,924 千円 うち委託費支出前年度比較： △6,191 千円 ※引き続き抑制可能なものは改善に取り組む。 	
3 SDの充実	SDを充実させ、職員の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修を 2 回実施。 第 1 回 2 日間(9 月) 第 2 回 2 日間(3 月) ※比治山学園を取り巻く環境変化、職場のメンタルヘルス、学習科学の知見を活かした学びの支援、著作物の引用と盗用に関する講演、AP 事業の活動報告・AP セミナー（公開）、UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）構築に関するアンケート報告などに取り組んだ。 平成 22 年度から実施している「職員研修発表会」を年 4 回開催。 平成 26 年度から実施している「真剣職員しゃべる場」を 4 回開催。 事務職員の能力開発と資質向上を目的とした研修要項も平成 27 年 1 月に制定。 	

4 IRによる大学改革システムの充実・強化	教育改革・学生支援・キャリア支援、そして大学運営に積極的に活用できる体制を整備・運用する。	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度、IRのシステム構築がほぼ完了。学内の学生データを一元化。 教育改革、学生支援、キャリア支援の視点から分析を実施し、執行部に対する月例報告を実施。 学生の直接評価としてはGPAをメインの指標とし、アンケート等の様々な間接評価項目との相関分析を中心に行った。 ※学籍異動分岐、就職可否分岐の知見を得た。 	平成27年度 重点事業 入学～就職に係るIRを充実する
5 学部・学科再編改組等	短期大学部総合生活デザイン学科	<ul style="list-style-type: none"> 短期大学部総合生活デザイン学科栄養士養成コース：平成29年度から募集停止。 生活創造コース：「上級秘書」「観光ビジネス」「ファッション・ブライダル」「フード」「ハウス・インテリア」の5系列に改編することとした。 	平成27年度 重点事業 短期大学部50周年までの短期ビジョン策定
	現代文化学部の学科再編	<ul style="list-style-type: none"> マスコミュニケーション学科観光×メディアコースを設置して学科の教育内容の充実を図った。 ※このことにより入学定員の90%まで充足。 並行して、当該学部のあり方については認可事項、届出事項の範囲、教員、設置経費、実現可能性を検討を開始。 	平成27年度 重点事業 現代文化学部の学科再編
6 キャンパス整備	1号館～4号館及び8号館の耐震工事又は新共同教育棟新築の比較検討等を行い対応する。	<ul style="list-style-type: none"> 1号館・8号館の耐震診断実施(耐震診断完了) 1号館・4号館について、耐震補強工事を行うことを決定。4号館の耐震補強・大規模改修工事の実施設計を実施し、施行業者を決定。 短大の共通教育棟として、3号館を改築する方向で検討。 8号館については、4号館への機能移転について検討。 2号館については、将来的に解体する方向で検討。 <p>※上記を踏まえ、牛田キャンパス全体の施設整備計画について、グランドデザインの策定を進めており平成28年度中の策定を目指す。</p>	平成27年度 重点事業 1号館～4号館の耐震化工事等

7 情報通信技術を生かした教育環境整備	情報機器やシステム更新等	<ul style="list-style-type: none"> AP 事業の推進にあたり LMS (JAST 社の e-learning システム) を導入。 ※Hi!way システムとの連動を図った。運用は平成 28 年度から試行予定。 平成 28 年度に更新予定の、7 号館のコンピュータ実習室 (07306 教室) のシステム更新を、平成 27 年度活性化補助金を利用して前倒し実施。 	平成 27 年度 重点事業 情報機器やシステム更新
8 認証評価への適切な対応	大学の認証評価を受審し、その対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、適合している旨の認定を得た。 平成 27 年 11 月 12 日及び 13 日に実地調査を受審。 	平成 27 年度 重点事業 大学の認証評価の受審と、その対応
VI 平成 26 年度事業の継続事業			
1 定員確保に対する各種の対策 (広報活動、オープンキャンパスなど)	広報活動 (とりわけ入試広報担当参事や教員による高校訪問、高大連携授業の展開等)、オープンキャンパスの充実、学部学科等の情報発信力の強化など定員の確保に関する各種の対策を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 教員による高校訪問 平成 26 年度は延べ 284 校 平成 27 年度は述べ 292 校 ※入試広報担当参事が同行し、学科教員の PR 説明がスムーズに行えるようサポート。 高校生や高校教員に向けて情報発信 学科通信の制作、学科ブログの更新。 高校内ガイダンスの実施 分野説明、高校生にあった模擬授業を実施。 オープンキャンパスの実施 多くの高校生と直接接触する機会を生かし、各学科ブースでは展示の工夫や在学生による相談等、高校生に必要な情報が何かを常に検討し実施。 	【平成 28 年度入学者数】 ・現代文化学部 (定員 310 名) →345 名 ・健康栄養学部 (定員 70 名) →74 名 ・短期大学部 (定員 270 名) →283 名
2 学生の留年・退学・除籍問題の改善	学生の留年・退学・除籍問題の改善に向けて従来の学習サポートなどの施策を実施するとともに、とりわけ 1 年次生についてチューターによる積極的な相談・支援など、より効果的な施策を検討し、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 1 年次生について、授業時間割の 1 時限に多くの科目を割当※入学当初からメリハリのある学生生活を送ることができるようにすることを目的 学習サポートセンターについて、図書館「Me+Library (みらいぶらりい)」に分室を置き、主に職員アドバイザー(英語担当)のもと、日常的なアドバイス活動を実施。 夏季休暇には夏季講座(検定対策)や図書館企画講座(基礎力アップ)を企画・実施。 ※アドバイザーにはサポート日誌への記 	【大学】(人) ⑳ ㉑ ㉒ 休学 68 53 59 退学 61 38 45 除籍 9 9 6 【短大】(人) ⑳ ㉑ ㉒ 休学 15 12 12 退学 17 9 12 除籍 3 1 0

		<p>入を依頼し，必要に応じてチューター等と情報交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューターによる全員面談 前後期の学期半ばの時期に1・2年生を対象 ・チューター全員面談における必要な対応実施と，学科会議等での情報交換。 	
<p>3 就職率の改善</p> <p>※関連 II3「キャリア形成・就職支援体制の充実・強化」</p>	<p>就職先開拓担当参事，分野別就職戦略アドバイザー，学生に対する就職相談・助言員制度を活用して就職相談・支援を充実するなど，より効果的な施策を展開し，就職率（就職希望者に占める就職内定者の割合）の改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園就職希望者に係る参与制度を継続。 ・キャリアアドバイザーによるキャリアガイダンスの実施。 <p>※内容を本学就活生の実業を踏まえた実のあるものに変更。 (参加率)</p> <p>大学 ②⑥ 37.6% ⇒ ②⑦ 42.2% 短大 ②⑥ 30.4% ⇒ ②⑦ 44.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社見学を新規に実施。 9月に13名の学生が2社を見学。 ・県外合同説明会バスツアーを実施。 参加者：40名 ・県内合同説明会等就活の支援の実施。 	<p>【就職率】 (%)</p> <p>②⑥ ②⑦ ②⑧</p> <p>大学 92 96 93 短大 98 97 96</p>
<p>4 短期大学部50周年記念事業の準備</p>	<p>①50周年に向けての広報活動</p> <p>②50周年記念誌の発行</p> <p>③50周年記念式典，講演会，祝賀会の開催</p> <p>④50周年記念大学祭の実施</p> <p>⑤短期大学部各学科による記念行事</p>	<p>①広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50周年記念ロゴ及びキャラクター，記念シール，スタンプを制作し活用。 ・オープンキャンパスを利用したの広報実施。 ・50周年記念事業のホームページ開設 <p>②記念誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50周年記念誌を作成中。 <p>③記念式典等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月11日にリーガロイヤルホテルで開催。案内状を発送。 <p>④記念大学祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学祭実行委員会へ依頼して内容を検討中。 <p>⑤各学科記念行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科による記念行事の実施計画を策定。 	

(3) 比治山女子中学校・高等学校

ア 中学校・高等学校の使命（ミッション）

- 「親心に応じて悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」という「建学の精神」と「五訓」である「正直、勤勉、清潔、和合、感謝」を基礎に、知・徳・体を備え、知性・気品・慈愛に満ち溢れる心豊かな人間性を有する女性を育成する。
- 生涯にわたって、社会の変化に対応できる幅広い力を持ち、グローバル社会に貢献できるための生き方・在り方について自ら考え、判断し、行動することができる女性を育成する。

イ 中学校・高等学校の実現しようとする学校像

(7) 教職員の協働・参画意識の高揚と職能成長

全領域においてミッションの実現に向かって、学校組織体として教職員が教育を実践するために協働及び参画意識の高揚と教職員としての職能成長を図る。

(4) 今以上に選ばれ、信頼され、存在感ある学校

小・中学生とその保護者並びに教育機関（小・中学校、塾等）から今以上に選ばれ、信頼され、存在感ある学校とする。

- 平成27年度の重点事業
 - i 志願者増と募集人員確保
 - ii 学力向上と進路指導の充実
 - iii 特色ある学校づくり
 - iv 経営改革の加速化

ウ 事業概要

番号	事業計画	実施状況 ※数値の後の（ ）は前年度実績	摘要
i	志願者増と募集人員の確保 安定した生徒数を確保するため、本校の魅力や特色を広く紹介するための広報活動の充実を図るなど比治山ブランドを高める取組を行うほか、入試制度の見直しなどを検討する。	【入学者数の状況】 1 中学校 27年度に引き続き、学力面、生活面が一定レベル以上の生徒を合格させるという方針で臨み、入学者数は前年度並の59人となった。 2 高等学校 他中学校からの入学者数は147人、校内進学者を加えた入学者数合計は230人で、前年度を下回ったものの、ある程度の水準を保つことができた。 ※推薦入試の受験者数、とくに英語コースの受験者数が伸びている。英語コースへの授業料全額減免制度導入の効果と考えられる。 ※専願入試普通コース受験者が減少しつつある。 コースの特色づくり、入試制度の見直し等の対応が必要。	【入学者数の推移】 （中学校） (26) (27) (28) 計 99 61 59 （高等学校） (26) (27) (28) 比中 69 72 83 他中 125 164 147 計 194 236 230 （合計） (26) (27) (28) 合計 293 297 289 【推薦入試合格者数】 (26) (27) (28) 特進 5 3 6 普通 14 25 25 英語 3 11 22 【普通コース専願受験者数】 (26) (27) (28) 156 191 147

<p>ア 比治山ブランドを高める 広報の充実</p> <p>① オープンスクールの開催 学校説明, 施設見学, ク ラブ体験等を通して, 比 治山教育の理解を促す。</p> <p>② ひじやまセミナーの開催 比治山の教育を基礎に, 地 域の活性化と社会貢献を 図ることを目的に実施 (広島県, 広島市及び周 辺市町の教育委員会の 後援を得て実施)</p> <p>③ ホームページによる広報</p> <p>④ 学校紹介リーフレット作成</p>	<p>【小学生対象】～3回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/20 (土) 64名 (74名) ・ 10/17 (土) 113名 (104名) ・ 2/27 (土) 28名 (32名) <p>【中学生対象】～2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/11 (土), 12 (日) 554名 (652名) ・ 11/7 (土) 295名 (261名) <p>2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/29 (土) 親子クラフト教室, 親子パン教室 陸上教室 参加者 193名 (57名) ・ 9/12 (土) 親子クラフト教室, 親子パン教室 陸上教室 参加者 182名 (60名) <ul style="list-style-type: none"> ・ 新着情報のタイムリーな掲載 ・ 広報効果を高めるため, ホームペ ージのリニューアルを実施 (H27.5.1から更新) <p>中学校用, 高等学校用の2分冊とし, 比治山のイメージを統一するため, ホームページと共通性のあるデザイ ンを採用</p>	
<p>イ 学校関係者等への広報の 充実</p> <p>① 塾対象説明会の開催</p> <p>② 学校訪問</p> <p>③ 私学フェスタへの参加</p> <p>④ 在校生姉妹対象入試説明 会の開催</p>	<p>2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/ 3 (水) 62塾 (77塾) ・ 9/30 (水) 78塾 (60塾) <p>中学校訪問 123校, 延べ373回</p> <p>広島県私立中学高等学校協会主催の 私学フェスタに参加し, クラブ発表や 学校説明を実施</p> <p>小学校6年生, 中学校3年生の姉妹 を持つ在校生保護者に対し, 個別に 姉妹対象入学金減免制度の説明を 実施</p>	<p>26年度 延べ451回</p>

	<p>ウ 入試制度、授業料等減免制度の見直し検討</p>	<p>受験者増を図る観点から、推薦入試（特進コース、英語コース）受験者に係る授業料等の減免基準の見直しを実施</p> <p>【見直しの内容】</p> <p><27年度> 授業料等の全額減免制度導入 ・特進コース推薦入試入学者 中学校3年間の国、社、数、理、英の5段階評定値合計が72/75以上 ・英語コース推薦入試入学者 英検準2級以上資格取得者</p> <p><28年度> 特進コース推薦入試入学者の全額減免の要件緩和 72/75 → 65/75</p>	<p>該当入学者数の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(26)</th> <th>(27)</th> <th>(28)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特進</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>		(26)	(27)	(28)	特進	5	3	6	英語	3	11	22																
	(26)	(27)	(28)																												
特進	5	3	6																												
英語	3	11	22																												
ii	<p>学力向上と進路指導の充実</p> <p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員の第一志望校合格 ・国公立大合格者50名以上 <p>ア 学力向上の取組</p> <p>① 補習等の実施</p> <p><中学校> 成績上位層を対象に、既習単元の応用力を養成</p> <p><高等学校> 国公立、難関私大進学希望者等を対象に、応用力強化と受験対応力を養成</p>	<p>【平成27年度進路実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者数（既卒含む） 34名 ・進路実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(26)</th> <th>(27)</th> <th>(28)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国立大学</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>公立大学</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>私立大学</td> <td>223</td> <td>369</td> <td>353</td> </tr> <tr> <td>大 学 校</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>短 大</td> <td>17</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・中一 <ul style="list-style-type: none"> 夏季補習 5日間 国・数・英 春期補習 4日間 国・数・英 ・中二 <ul style="list-style-type: none"> 夏季補習 5日間 国・数・英 春期補習 4日間 国・数・英 ・中三 <ul style="list-style-type: none"> 夏季補習 5日間 国・数・英 ・高1 <ul style="list-style-type: none"> 夏季補習（特進生＋希望者） 8日間 国・数・英 冬季補習（特進生） 2日間 国・数・英 春季補習（特進生＋希望者） 4日間 国・数・英 		(26)	(27)	(28)	国立大学	5	12	15	公立大学	19	22	19	私立大学	223	369	353	大 学 校	0	1	0	短 大	17	26	27	専門学校	18	23	14	
	(26)	(27)	(28)																												
国立大学	5	12	15																												
公立大学	19	22	19																												
私立大学	223	369	353																												
大 学 校	0	1	0																												
短 大	17	26	27																												
専門学校	18	23	14																												

	<p>② 学習合宿の実施 <目的> ・学力の向上 ・学習習慣の定着 ・学習意欲の喚起</p> <p>③ 外部模試等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高2 <ul style="list-style-type: none"> 夏季補習（特進生＋希望者） 14日間 国・数・英・社・理 （特進生 19日間） 冬季補習（特進生） 2日間 国・数・英 春季補習（特進生＋希望者） 4日間 国・数・英・社・理 代ゼミサテライン講座 放課後（6月～3月） ・高3 <ul style="list-style-type: none"> 夏季補習（特進生） 15日間 国・数・英・社・理 冬季指定学習（センター試験受験者） 19日間 国・数・英・社・理 国公立二次試験対策 前期・後期試験前 国・数・英・社・理・小論文 代ゼミサテライン講座 放課後（6月～3月） ・高1特進 4/18～4/19, 8/20～8/21（セミナーハウス） ・高1（全員） 10/21～23（シネツインしまなみビレッジ） ・高2特進 7/29～7/31（セミナーハウス） ・高1 <ul style="list-style-type: none"> 進研模試 7, 10, 1月 スタディサポート 3月 （特進） 全統模試（5, 8, 11, 2月） スタディサポート② 9月 ・高2 <ul style="list-style-type: none"> 進研模試 7, 10, 1, 2月 スタディサポート 3月 （特進） 全統模試（5, 11, 2月） ・高3 <ul style="list-style-type: none"> 進研模試 6, 7, 9, 10, 11月 代ゼミ模試 11月 （特進） 全統模試（5, 9, 10, 12月） ・その他 <ul style="list-style-type: none"> 高2・高3への小論文模試 高2・高3希望者への大学別プレ模試の案内 	
--	--	--	--

④ 授業内容・方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着，向上を図るため，中一，中二の数学で少人数・習熟度別授業を実施 ・ICTを活用した教育内容，授業方法の改善に向け，実験的な模擬授業を実施
⑤ 教職員の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に対し研修受講を督励 【研修受講実績】 県内 延べ 157 人（77 講座） 県外 延べ 58 人（36 講座） ・校内授業研究の実施 国語，社会，数学，理科，英語，保健体育，家庭の 7 教科で実施 研究授業実施⇒協議・反省会
⑥ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝，放課後の自学自習の場を確保するため，本館内に自習室を整備（2 室） ・学力不振者に対する補充授業の実施 長期休業中（7, 8, 12, 3 月）に実施
イ 進路意識向上の取組	
① 意識啓発の取組	<p>学年ごとに進路学習の年間計画を策定し，各学年の進路目標に応じ，進路意識の向上を図る取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高 3 スタートアップセミナー（4 月） ・キャリアスタディ（中三，高 1：6 月） ～社会で活躍している卒業生の講演 ・比治山大学説明会（高 3）（6 月） ・高 2 スタートアップセミナー①（7 月） ・進路講演会（高 1 特進：10 月） ・高 2 スタートアップセミナー②（10 月） ・センター試験 100 日前団結式（10 月） ・職場体験（中二 10 月） ～ 6 企業で実施 ・比治山大学模擬授業（高 1, 2：11 月） ・高 2 スタートアップセミナー③（12 月） ・受験体験
② 進路検討会の開催	<p>生徒の進路決定をサポートするための進路検討会を開催（4 回開催）</p>

<p>iii</p>	<p>特色ある学校づくり ア グローバル人材の育成 ① 姉妹校提携事業の継続実施 ② オーストラリア短期留学 ③ 比治山大学との連携</p> <p>イ 課外活動等の充実 ① 部活動の充実</p> <p>② 生徒会活動の活性化</p>	<p>8月7日から8月10日までの4日間、韓国源花女子高等学校の生徒20名を受け入れ交流</p> <p>高1英語コース35名が、1月23日から3月20日までの58日間オーストラリアへ短期留学。語学力を磨くとともに、異文化に触れ視野を広げた。</p> <p>高大連携協議を2回開催 ・第1回 平成27年5月18日(月) 中高と大学との連携・接続プログラムについて意見交換 ・第2回 平成27年7月30日(水) グローバルリーダーの育成に向けた高大接続プログラムの策定について協議</p> <p>・比治山ブランドを高める柱のひとつである部活動の充実を図るため、外部から高い専門技術を持つ指導者を招聘 ・毎日の練習や対外試合、発表会などを積極的に行い、技術力・連帯感の向上を図った。 ・平成27年度は、水泳部(シンクロナイズドスイミング)が国体や国際大会に出場し、国際大会で優勝するなど優秀な成績を収めたほか、多くの部で中国大会、全国レベルの大会に出場し、優秀な成績を収めた。 ・また、吹奏楽部が、アメリカ合衆国全カリフォルニア州音楽教育協会アニュアルカンファレンスの招きにより、同州のサンノゼ市、サンフランシスコ市を訪問し、メインコンサートでの演奏、ホストスクールとの合同演奏会開催等を行い友好を深めた。 期間 平成28年2月8日～14日 人数 吹奏楽部生徒 63名 教職員 3名</p> <p>セミナーハウスを活用するなどして、生徒会活動の活性化に取り組んだ。</p>	<p><外部指導者の招聘部> 生花部, 合唱部, 箏曲部, 茶道部, 美術部, ギターマンドリン部, 吹奏楽部, バトン部, ソフトテニス部, 硬式テニス部, 陸上部, なぎなた部, 水泳部, 卓球部</p>
------------	--	---	---

	<p>ウ 地域への貢献</p> <p>① 「ひじっ子みゆにていくりーん」の実施</p> <p>② 地域との交流</p>	<p>中学校生徒会を中心に、学校の周辺地域の清掃活動を行う「ひじっ子みゆにていくりーん」を実施 実施回数 3回</p> <p>・黄金山フェスティバル、地元敬老会などの地域行事に参加し、演奏会等を行い交流を図った。 ～バトン部、ギターマンドリン部、吹奏楽部、合唱部</p> <p>・体育祭、文化祭、吹奏楽部定期演奏会等に近隣住民を招待</p>	
iv	<p>経営改革の加速化</p> <p>① 中期計画の策定</p> <p>② 中・高改革推進会議の開催</p> <p>③ 収支バランスの改善</p> <p>④ 施設設備等の充実</p>	<p>平成28年度から33年度までの6年間の本校の学校経営の指針となる「中期計画」を策定。 この計画に沿って具体的な取組を進めていくこととした。</p> <p>この会議を定期的で開催（27年度は10回）し、学校経営改革の具体策、学校の魅力をアップするための方策等について協議した。</p> <p>・収入増を図るため、入学金、授業料、施設設備費の改定を検討し、平成29年度から学年進行で改定することを決定</p> <p>・人件費の見直しを進めるため、定員管理計画の策定に着手</p> <p>学校の魅力アップを図るため、施設・設備の改修を進めるとともに、老朽化した校舎等の改修の検討にも着手した。</p> <p>・A館教室のエアコンを更新（工事費：29,160千円）</p> <p>・A館トイレの洋式化に着手</p>	<p><アップ額></p> <p>入学金 20,000円 授業料 2,000円 施設整備費 500円</p>

(4) 【比治山大学短期大学部附属幼稚園】

ア 幼稚園の使命（ミッション）

”命を大切に作る心””感動する心””しなやかな心”を柱として、「いきいき・のびのび・どきどき」をモットーに、基本的な生活習慣・態度を育て、豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのある子どもを育てることを使命とする。

イ 幼稚園の基本方針

安心・安全、自然環境豊かな幼児教育の場として相応しい環境の下、大学・短期大学の附属幼稚園として、先進的な教育・研究を実践すると共に、学生の実習と多様な研究協力の場を提供する。さらに社会のニーズに合わせた子育て支援事業を充実させ、地域になくてはならない園として貢献する。

ウ 事業概要

項目	事業計画	実施状況	摘要
I 平成 26 年度事業の継続事業			
1 定員確保 に対する施 策	①社会や時代のニーズを踏まえた保育内容・プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標「人とのかかわりを深め信頼感や思いやりの気持ちを育てる」を掲げ、教育活動の一層の充実を実施 英語活動の継続 年長 5 月から 10 回 年中 1 月から 3 回 	
	②広報戦略・広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 市・区への情報公開、ホームページのスピーディーな配信の実施。 オープンキンダーガーデンの開催 中国新聞の折り込みチラシで広報し、2 日間（7/25、8/23）で 61 組の保護者が参加した。 	入園児数 (5/1 現在) ②752→②858
	③その他預かり保育など定員確保につながる必要な対策	<ul style="list-style-type: none"> 27 年度子育て支援事業 開催日数 131 日 登録者 266 組 参加保護者延べ 1,786 人 未就園児延べ 2,093 人 多くの方に利用していただき子育て支援アンケート結果も高評価であった。 入園前の体験クラス参加者 「こりす組」（未就園児 2～3 歳対象） 5 月～7 月：6 回、48 組 「うさぎ組」（次年度入園予定者対象） 11 月～3 月：8 回、49 組 預かり保育 年間延べ 2,518 人の利用 (内、早朝（7:30～）預かり利用者：延べ 702 人の利用) 	保護者アンケート 「子育て支援事業（すくすくまなびの広場・預かり保育）等で子育てされる方々の支援を行っている。」 ↓ 「とてもそう思う」 ②759.6% ②876.0%

2 教職員の 研修の促進		<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇（夏休み等）を利用して、全教諭研修会に参加し保育の質の向上を図った。 ・重点目標を掲げ、職員の研修会を密にし、年度末には自己評価を公表した。 	
3 運営の強 化	運営委員会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・園長が大学運営委員会のオブザーバーとして毎回参加することにより附属幼稚園として大学・短期大学部の全体の流れの把握ができたまた幼稚園運営上、大学・短期大学部とのスムーズな連携を図ることができた。 	
4 南園舎の 耐震化		長期休暇（夏休み：7月下旬から9月上旬）を利用し、南園舎の耐震工事を実施完了 （経費：約 1,960 万円）	28年度 外壁塗装工 事予定
II 平成 27 年度重点事業			
1 経営改革	専任園長の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・専任園長の設置により、社会のニーズに対応する経営戦略の具現化を図り、園児の確保に繋げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当の外注（週1回） ・早朝預かり 7：30～ ・「こりす」組の開催

2 入試（28年度入学）に関する状況

(1) 比治山大学 現代文化学部

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
言語文化学科	120	326	178	148	133	82	51
マスコミュニケーション学科	60	125	82	43	54	40	14
社会臨床心理学科	60	167	82	85	74	37	37
子ども発達教育学科	70	299	141	158	84	33	51
計	310	917	483	434	345	192	153

(2) 比治山大学 健康栄養学部

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
管理栄養学科	70	186	30	156	74	10	64
計	70	186	30	156	74	10	64

(3) 比治山大学 現代文化学部 編入学

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
言語文化学科	5	3	2	1	2	2	0
マスコミュニケーション学科	3	0	0	0	0	0	0
社会臨床心理学科	5	2	2	0	2	2	0
子ども発達教育学科	10	4	1	3	4	1	3
計	23	9	5	4	8	5	3

(4) 比治山大学 健康栄養学部 編入学

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
管理栄養学科	5	5	0	5	3	0	3
計	5	5	0	5	3	0	3

(5) 比治山大学 専攻科

専 攻 名	入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
子ども発達教育専攻	10	0	0	0	0	0	0
計	10	0	0	0	0	0	0

(6) 比治山大学 大学院 現代文化研究科

研究科名等	入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
現代文化研究科	9	0	0	0	0	0	0
現代文化研究科	5	14	7	7	8	3	5
計	14	14	7	7	8	3	5

(7) 比治山大学短期大学部

学 科 名 等		入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
			男子	女子	男子	女子		
幼児教育科		100	210	3	207	110	0	110
総合生活デザイン学科		100	147	4	143	114	2	112
内 訳	栄養士養成コース	60	52	3	49	34	1	33
	生活創造コース	40	95	1	94	80	1	79
美術科		70	87	5	82	59	5	54
計		270	444	12	432	283	7	276

(8) 比治山大学短期大学部 専攻科

専 攻 名		入学 定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
			男子	女子	男子	女子		
美術専攻		15	13	0	13	13	0	13
栄養専攻		-	-	-	-	-	-	-
計		15	13	0	13	13	0	13

※H28年度から栄養専攻の学生募集停止

(9) 比治山女子高等学校

区 分	募集人員	応 募 人 数	入 学 者 数
高等学校 全日制普通科	215	485 (83)	230 (83)

※（ ）内は、併設中学からの数で内数。

(10) 比治山女子中学校

区 分	募集人員	応 募 人 数	入 学 者 数
中学校	140	202	59

(11) 比治山大学短期大学部付属幼稚園

区 分	入学定員	応 募 人 数		入 園 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
幼稚園	70	63	31	32	58	27	31

3 就職・進学に関する状況

(1) 比治山大学 (平成28年5月1日現在) (単位:人, %)

区 分	卒業生数 ①	就 職 希望者数 ②	内 定 者 数 ③		進学者数	内 定 率 ③/②
			ア	イ		
言語文化学科	87	76	65		0	85.5
			61	4		
マスコミュニケーション 学科	31	25	23		0	92.0
			22	1		
社会臨床心理学科	53	36	34		7	94.4
			31	3		
子ども発達教育学科	79	76	76		0	100.0
			59	17		
学部全体	250	213	198		7	93.0
			173	25		

(9月卒業生5人を含む)

ア: 正規の職員

イ: 雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務者

求人申込件数 企 業 1,003件
幼稚園・保育所等 460件

(2) 比治山大学短期大学部 (平成28年5月1日現在) (単位:人, %)

区 分	卒業生数 ①	就 職 希望者数 ②	内 定 者 数 ③		進学者数	内 定 率 ③/②
			ア	イ		
幼児教育科	97	94	94		3	100.0
			85	9		
総合生活デザイン学科	113	92	86		6	93.5
			82	4		
美術科	77	39	35		18	89.7
			31	4		
学部全体	287	225	215		27	95.6
			198	17		

(9月卒業生 2人を含む)

ア: 正規の職員

イ: 雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務者

求人申込件数 企 業 900件
幼稚園・保育所等 515件

(3) 比治山女子高等学校（平成28年4月1日現在）

		合格者数（既卒者含む）
大 学	国 立	1 5
	公 立	1 9
	私 立	3 5 3
	小 計	3 8 7
短 期 大 学	公 立	0
	私 立	2 7
	小 計	2 7
大 学 校		0
専 門 学 校		1 4
合 計		4 2 8

※ 平成28年3月卒業生数 262名

※ 合格者数は延べ人数

4 施設・設備の整備に関する状況

区 分	状 況
牛田キャンパス	正門周辺整備工事 平成27年度大学改革推進事業（AP）LMS(e-learning)の導入 アクティブラーニング室機器整備 幼稚園テラス防水スクリーン増設工事
霞町キャンパス	A館教室等空調設備更新工事 駐輪場照明増設・更新工事 B館トイレ汚水排水路改修工事 食堂用温水器更新 電話機能向上対策工事 貯水槽修繕工事
からまつ学寮 （学外研修施設）	宿泊棟放送設備修繕工事 宿泊棟便器ロータンク蓋取替工事 給水ポンプ交換及び配管修繕工事（便所及び風呂用） 給水ポンプ交換工事（井戸水用） 管理棟スズメバチ駆除 宿泊棟設備等全面点検 塩素滅菌装置設置工事（井戸水用） 調理室配管修理・ガス漏警報器取替工事 宿泊棟自動火災報知設備改修工事

Ⅲ 財務の概要

1 平成 27 年度決算の概要

(1) 資金収支計算書

平成 27 年度の資金収支の状況は、当該年度の収入額が 36 億 4,202 万 6,904 円、これに、前年度より繰り越された 31 億 9,216 万 9,561 円を加えると収入の部合計は、68 億 3,419 万 6,465 円となった。

一方、支出額は、人件費、教育研究経費、管理経費、施設関係、設備関係、資産運用、その他の支出を合わせると 35 億 6,009 万 87 円であったので、差引 32 億 7,410 万 6,378 円が翌年度の繰越支払資金となり、昨年度より 8,193 万 6,817 円増加した。これは、収入における補助金収入や学生生徒等納付金収入などの増が、支出における資産運用支出やその他の支出などの増を上回ったことによるものである。

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	2,438,386,400	人件費支出	2,276,182,902
手数料収入	55,036,990	教育研究経費支出	487,581,026
入学検定料収入	49,843,000	管理経費支出	162,240,822
寄付金収入	4,356,000	施設関係支出	54,473,449
補助金収入	720,214,445	設備関係支出	62,221,928
国庫補助金収入	326,363,000	資産運用支出	507,916,025
地方公共団体補助金収入	393,851,445	その他の支出	49,243,127
付随事業・収益事業収入	12,231,619	〔予備費〕	0
受取利息・配当金収入	28,972,604	資金支出調整勘定	△ 39,769,192
雑収入	166,766,459	翌年度繰越支払資金	3,274,106,378
前受金収入	568,214,450	支出の部合計	6,834,196,465
その他の収入	256,418,300		
資金収入調整勘定	△ 608,570,363		
前年度繰越支払資金	3,192,169,561		
収入の部合計	6,834,196,465		

●活動区分資金収支計算書

教育活動による資金収支			その他の活動による資金収支		
科目	金額	科目	金額	科目	金額
収入		収入		退職給与引当特定資産取崩収入	132,414,032
学生生徒等納付金収入	2,438,386,400	預り金受入収入	0	預り金受入収入	0
手数料収入	55,036,990	仮受金受入収入	0	小計	132,414,032
特別寄付金収入	4,356,000	受取利息・配当金収入	28,972,604	受取利息・配当金収入計	28,972,604
一般寄付金収入	0	その他の活動資金収入計	161,386,636	退職給与引当特定資産繰入支出	22,633,416
経常費補助金収入	709,173,445	教育活動資金収入計	3,385,950,913	出資金支出	15,600
付随事業収入	12,231,619			預り金支払支出	9,272,058
雑収入	166,766,459			仮払金支払支出	0
支出				小計	31,921,074
人件費支出	2,276,182,902			借入金等利息支出	0
教育研究経費支出	487,581,026			その他の活動資金支出計	31,921,074
管理経費支出	162,240,822			差引	129,465,562
教育活動資金支出計	2,926,004,750			調整勘定等	0
差引	459,946,163			その他の活動資金収支差額 ③	129,465,562
調整勘定等	49,001,429			支払資金の増減額(小計+③)	81,936,817
教育活動資金収支差額 ①	508,947,592			前年度繰越支払資金	3,192,169,561
				翌年度繰越支払資金	3,274,106,378
施設整備等活動による資金収支					
収入					
施設設備寄付金収入	0				
施設設備補助金収入	11,041,000				
施設設備売却収入	0				
第2号基本金引当特定資産取崩収入	0				
教育施設設備特定資産取崩収入	45,486,049				
減価償却引当特定資産取崩収入	0				
施設整備等活動資金収入計	56,527,049				
支出					
施設関係支出	54,473,449				
設備関係支出	62,221,928				
第2号基本金引当特定資産繰入支出	392,000,000				
教育施設設備特定資産繰入支出	34,293,430				
減価償却引当特定資産繰入支出	58,973,579				
施設整備等活動資金支出計	601,962,386				
差引	△ 545,435,337				
調整勘定等	△ 11,041,000				
施設整備等活動資金収支差額 ②	△ 556,476,337				
小計(①+②)	△ 47,528,745				

(2) 事業活動収支計算書

平成27年度の事業活動収支決算のうち、教育活動収支の概要について予算との対比で説明すると、収入は、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入のすべての科目において予算額を上回った。

学生生徒等納付金については、24億3,838万6,400円、経常費等補助金は7億917万3,445円となった。これらの結果、教育活動収入額は、予算を5,209万2,913円上回り、33億8,595万913円となった。

一方、支出は、人件費、教育研究経費、管理経費とも予算額を下回り、その結果、教育活動収支における教育活動支出額は、31億5,400万7,887円となった。

この結果、教育活動収支差額は2億3,194万3,026円となり、その他の、教育活動外収支差額及び特別収支差額を合わせて、基本金組入前当年度収支差額は、2億7,805万5,162円となった。

また、基本金への組入額は、3億9,767万8,811円となっている。この内訳は、幼稚園南園舎の耐震工事、中・高冷暖房設備工事などによる第1号基本金組入額が2,277万8,811円、短大新棟I建築等に係る第2号基本金組入額が、3億7,490万円となっている。

基本金組入後の当年度収支差額は、△1億1,962万3,649円で、前年度の繰越収支差額と合算して、翌年度繰越収支差額は△20億8,152万6,258円となった。

(単位:円)

		科目	決算			科目	決算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,438,386,400	特別収支	収入事業の活動部	資産売却差額	0
		手数料	55,036,990			その他の特別収入	20,914,415
		入学検定料	49,843,000			特別収入計	20,914,415
		寄付金	4,356,000		支出事業の活動部	資産処分差額	3,774,883
		経常費等補助金	709,173,445			その他の特別支出	0
		国庫補助金	315,322,000			特別支出計	3,774,883
		地方公共団体補助金	393,851,445		特別収支差額		17,139,532
		付随事業収入	12,231,619		〔予備費〕		0
		雑収入	166,766,459		基本金組入前当年度収支差額	278,055,162	
		教育活動収入計	3,385,950,913		基本金組入額合計	△ 397,678,811	
	事業活動支出の部	人件費	2,158,003,235	当年度収支差額	△ 119,623,649		
		退職給与引当金繰入額	44,710,365	前年度繰越収支差額	△ 1,961,902,609		
		教育研究経費	814,881,642	基本金取崩額	0		
		減価償却額	327,300,616	翌年度繰越収支差額	△ 2,081,526,258		
		管理経費	177,163,010	(参考)			
		減価償却額	14,922,188	事業活動収入計	3,435,837,932		
		徴収不能額等	3,960,000	事業活動支出計	3,157,782,770		
教育活動支出計		3,154,007,887					
教育活動収支差額		231,943,026					
教育活動外収支	収入事業の活動部	受取利息・配当金	28,972,604				
		その他の教育活動外収入	0				
	支出事業の活動部	借入金等利息	0				
		その他の教育活動外支出	0				
教育活動外収支差額		28,972,604					
経常収支差額		260,915,630					

(3) 貸借対照表

学園の財政状態を貸借対照表によって説明すると、平成27年度末現在の資産の総額は、147億8,565万5,425円となった。その内訳は、有形固定資産86億9,775万3,118円、特定資産27億6,851万8,308円、その他の固定資産210万6,938円及び流動資産33億1,727万7,061円(内 未収金3,854万3,363円)である。

他方、負債の総額は、退職給与引当金、前受金など固定負債及び流動負債を合計して20億5,966万3,095円、基本金は、校地、校舎、機器備品、図書など教育研究に必要な資産の自己調達額を示す第1号基本金が135億4,435万4,475円、将来固定資産の取得に充てる第2号基本金が10億3,590万円、学校を恒常的に維持するための資金を示す第4号基本金が2億2,726万4,113円となっている。

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	27年度末	科目	27年度末
固定資産	11,468,378,364	固定負債	1,406,930,985
有形固定資産	8,697,753,118	長期借入金	0
土地	2,178,998,945	長期未払金	0
建物	4,907,630,174	退職給与引当金	1,406,930,985
構築物	307,764,079		
教育研究用機器備品	370,917,973	流動負債	652,732,110
管理用機器備品	32,968,762	短期借入金	0
図書	893,425,185	未払金	39,736,356
車両	0	前受金	568,214,450
建設仮勘定	6,048,000	預り金	44,781,304
		仮受金	0
特定資産	2,768,518,308		
第2号基本金引当特定資産	1,035,900,000	負債の部合計	2,059,663,095
第3号基本金引当特定資産	0	純資産の部	
教育施設設備特定資産	427,207,166	科目	27年度
減価償却引当特定資産	772,992,909	基本金	14,807,518,588
退職給与引当特定資産	532,418,233	第1号基本金	13,544,354,475
		第2号基本金	1,035,900,000
その他の固定資産	2,106,938	第3号基本金	0
電話加入権	1,521,336	第4号基本金	227,264,113
施設利用権	0	繰越収支差額	△ 2,081,526,258
ソフトウェア	2	翌年度繰越収支差額	△ 2,081,526,258
有価証券	0		
その他の資産	0	純資産の部合計	12,725,992,330
出資金	585,600		
		負債及び純資産の部合計	14,785,655,425
流動資産	3,317,277,061		
現金預金	3,274,106,378	(注記)	
未収金	38,543,363	減価償却額の合計額	4,845,080,019
有価証券	0		
前払金	4,627,320		
資産の部合計	14,785,655,425		

2 旧計算書類による推移

(1) 資金収支計算書の推移（平成22年度～平成26年度）

収入の部

(単位:千円)

科目 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学生生徒等納付金収入	2,394,298	2,353,066	2,312,989	2,345,989	2,399,662
手数料収入	51,199	50,508	50,923	55,367	59,652
寄付金収入	3,156	970	597	2,827	5,659
補助金収入	788,312	741,014	640,481	662,626	674,481
資産運用収入	34,919	37,562	37,246	36,962	31,687
資産売却収入	120,000	157,000	0	100,000	0
事業収入	8,036	7,512	7,359	8,325	8,319
雑収入	115,558	150,256	246,676	69,607	172,473
前受金収入	513,624	504,439	542,947	559,529	567,313
その他の収入	416,048	393,193	500,043	1,033,917	235,908
資金収入調整勘定	△ 630,187	△ 646,476	△ 693,878	△ 632,933	△ 643,319
前年度繰越支払資金	3,523,570	3,865,443	4,604,318	4,057,084	3,264,035
収入の部合計	7,338,533	7,614,487	8,249,701	8,299,300	6,775,870

支出の部

(単位:千円)

科目 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人件費支出	2,239,815	2,269,533	2,420,202	2,065,342	2,292,714
教育研究経費支出	562,158	539,370	523,249	465,845	517,368
管理経費支出	150,258	161,387	156,920	207,229	180,381
施設関係支出	152,151	102,661	55,907	1,158,345	14,550
設備関係支出	105,101	43,177	136,892	177,119	86,453
資産運用支出	271,353	131,811	1,079,744	473,597	488,329
その他の支出	33,794	41,540	279,259	527,004	39,216
資金支出調整勘定	△ 41,540	△ 279,310	△ 459,556	△ 39,216	△ 35,311
次年度繰越支払資金	3,865,443	4,604,318	4,057,084	3,264,035	3,192,170
支出の部合計	7,338,533	7,614,487	8,249,701	8,299,300	6,775,870

(2) 消費収支計算書の推移（平成22年度～平成26年度）

消費収入の部

（単位：千円）

科目 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学生生徒等納付金	2,394,298	2,353,066	2,312,989	2,345,989	2,399,662
手数料	51,199	50,508	50,923	55,367	59,652
寄付金	10,153	10,982	15,081	12,670	17,587
補助金	788,312	741,014	640,481	662,626	674,481
資産運用収入	34,919	37,562	37,246	36,962	31,687
事業収入	8,036	7,512	7,359	8,325	8,319
雑収入	115,558	150,256	246,676	69,607	172,473
帰属収入合計	3,402,475	3,350,900	3,310,755	3,191,546	3,363,861
基本金繰入額	△ 251,690	△ 160,499	△ 754,607	△ 782,725	△ 238,450
消費収入の部合計	3,150,785	3,190,401	2,556,148	2,408,821	3,125,411

消費支出の部

（単位：千円）

科目 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人件費	2,156,553	2,156,586	2,227,017	2,053,768	2,199,670
教育研究経費	834,967	860,892	861,423	749,726	845,487
管理経費	165,056	178,534	169,898	219,627	193,967
資産処分差額	10,361	13,631	57,373	20,073	3,400
徴収不能引当金繰入額		5,485	991	529	115
徴収不能額	13,469	17,622	12,822	4,165	4,616
消費支出の部合計	3,180,406	3,232,750	3,329,524	3,047,888	3,247,255

当年度消費収支超過額	△ 29,621	△ 42,349	△ 773,376	△ 639,067	△ 121,844
前年度繰越消費収支超過額	△ 355,645	△ 385,266	△ 427,615	△ 1,200,991	△ 1,840,058
翌年度繰越消費収支超過額	△ 385,266	△ 427,615	△ 1,200,991	△ 1,840,058	△ 1,961,902

(3) 貸借対照表の推移（平成22年度～平成26年度）

（単位：千円）

資産の部					
科 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
固定資産	10,509,852	10,149,571	10,591,929	11,236,968	11,357,791
有形固定資産	8,511,109	8,316,055	8,116,209	9,146,562	8,915,786
土地	2,178,999	2,178,999	2,178,999	2,178,999	2,178,999
建物	4,742,775	4,591,868	4,344,670	5,282,480	5,074,191
構築物	367,156	353,727	336,847	345,470	327,325
教育研究用機器備品	381,965	335,393	387,156	451,600	423,528
その他の機器備品	20,651	17,348	14,960	24,389	29,706
図書	819,377	838,596	853,515	863,624	878,581
建設仮勘定	0	0	0	0	3,456
車輛	186	124	62	0	0
その他の固定資産	1,998,743	1,833,516	2,475,720	2,090,406	2,442,005
電話加入権	1,521	1,521	1,521	1,521	1,521
その他のソフトウェア	6,982	5,586	4,189	2,793	1,396
有価証券	100,000	100,000	0	0	0
退職給与引当特定資産	1,040,705	942,228	756,025	741,258	642,199
教育施設設備特定資産	849,028	783,660	1,455,081	865,176	1,082,300
減価償却引当特定資産			258,365	479,102	714,019
出資金	507	521	539	556	570
流動資産	4,112,916	4,721,448	4,332,925	3,348,766	3,271,934
現金預金	3,865,443	4,604,318	4,057,084	3,264,035	3,192,170
未収入金	90,473	117,130	175,841	84,731	79,764
有価証券	157,000	0	100,000	0	0
資産の部合計	14,622,768	14,871,019	14,924,854	14,585,734	14,629,725
負債の部					
固定負債	1,935,860	1,822,913	1,629,728	1,618,154	1,525,111
退職給与引当金	1,935,860	1,822,913	1,629,728	1,618,154	1,525,111
流動負債	598,616	841,664	1,107,453	636,248	656,677
未払金	41,540	279,310	459,607	39,216	35,311
前受金	513,624	504,439	542,947	559,530	567,313
預り金	43,452	57,915	104,899	37,502	54,053
負債の部合計	2,534,476	2,664,577	2,737,181	2,254,402	2,181,788
基本金の部					
第1号基本金	12,108,294	12,201,793	12,307,000	13,480,126	13,521,575
第2号基本金	138,000	205,000	854,400	464,000	661,000
第4号基本金	227,264	227,264	227,264	227,264	227,264
基本金の部合計	12,473,558	12,634,057	13,388,664	14,171,390	14,409,839
消費収支差額の部					
翌年度繰越消費収入超過額	△ 385,266	△ 427,615	△ 1,200,991	△ 1,840,058	△ 1,961,902
消費収支差額の部合計	△ 385,266	△ 427,615	△ 1,200,991	△ 1,840,058	△ 1,961,902
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計	14,622,768	14,871,019	14,924,854	14,585,734	14,629,725

3 財務比率

(1) 平成27年度財務比率（新基準）

◇ 事業活動収支計算書関係比率（新基準）

（単位：％）

	比率名	算出方法	平成27年度	評価基準	備考
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	63.2	▼	
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	88.5	▼	
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	23.9	△	
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	5.2	▼	
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	▼	
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	8.1	△	
7	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	82.4	▼	
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	71.4	～	
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.1	△	
	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.1	△	
10	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	21.0	△	
	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	20.8	△	
11	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-11.6	△	
12	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	10.9	～	
13	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	7.6	△	
14	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	6.9	△	

※評価基準は、『今日の私学財政』（日本私立学校振興・共済事業団）による。

△ 高い値がよい

▼ 低い値がよい

～ どちらともいえない

◇ 活動区分資金収支計算書関係（新基準）

（単位：％）

	比率名	算出方法	平成27年度	評価基準	備考
1	教育活動資金収支比率	$\frac{\text{教育活動資金支出計}}{\text{教育活動資金収入計}}$	86.4		
2	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	15.0		
3	フリーキャッシュフロー比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額} + \text{施設整備等活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	-1.4		

◇ 貸借対照表関係比率（新基準）

（単位：％）

	比率名	算出方法	平成27年度	評価基準	備考
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	77.6	▼	
2	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	58.8	▼	
3	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	18.7	△	
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	22.4	△	
5	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債+純資産}}$	9.5	▼	
6	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債+純資産}}$	4.4	▼	
7	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	26.9	△	
8	運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{事業活動支出}}$	146.8	△	
9	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	86.1	△	
10	繰越収支差額 構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債+純資産}}$	-14.1	△	
11	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	90.1	▼	
12	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	81.1	▼	
13	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	508.2	△	
14	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	13.9	▼	
15	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	16.2	▼	
16	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	576.2	△	
17	退職給与引当特定資産 保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	37.8	△	
18	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	△	
19	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額（図書を除く）}}{\text{減価償却資産取得価額（図書を除く）}}$	46.3	～	
20	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	82.9	△	

運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却額の累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

※評価基準は、『今日の私学財政』（日本私立学校振興・共済事業団）による。

△ 高い値がよい

▼ 低い値がよい

～ どちらともいえない

(2) 財務比率の推移（旧基準による）（平成22年度～平成26年度）

分類	比 率	算 式（×100）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	評価基準
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	63.4%	64.4%	67.3%	64.4%	65.4%	▼
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	24.5%	25.7%	26.0%	23.5%	25.1%	△
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	4.9%	5.3%	5.1%	6.9%	5.8%	▼
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	93.5%	96.5%	100.6%	95.5%	96.5%	
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	132.8%	137.4%	143.9%	129.9%	135.3%	
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	70.4%	70.2%	69.9%	73.5%	71.3%	～
	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.3%	0.3%	0.5%	0.4%	0.5%	△
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	23.2%	22.1%	19.3%	20.8%	20.1%	△
貸 借 対 照 表	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	7.4%	4.8%	22.8%	24.5%	7.1%	△
	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消 費 収 支 差 額}}{\text{総 資 金}}$	-2.4%	-2.6%	-2.7%	-12.6%	-13.4%	△
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 繰 入 額}}$	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	△
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	86.7%	82.9%	81.7%	91.1%	91.2%	▼
	固定長期適合率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金} + \text{固 定 負 債}}$	74.8%	72.1%	72.6%	80.6%	81.3%	▼
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	687.1%	561.0%	391.3%	526.3%	498.3%	△
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	752.6%	912.8%	747.2%	583.4%	562.7%	△
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 金}}$	17.3%	17.9%	18.3%	15.5%	14.9%	▼
	負債率	$\frac{\text{総 負 債} - \text{前 受 金}}{\text{総 資 産}}$	13.8%	14.5%	14.7%	11.6%	11.0%	
基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	97.1%	97.0%	96.8%	87.0%	86.4%		

(注1) 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額 自己資金＝基本金＋消費収支差額

(注2) 評価基準は、『今日の私学財政』（日本私立学校振興・共済事業団）による。

△ 高い値がよい

▼ 低い値がよい

～ どちらともいえない

4 寄付金の状況

(単位：円)

種 類 \ 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
※特別寄付金 (教育施設等整備資金)	970,386	597,000	2,827,000	2,659,000	4,356,000
一般寄付金	0	0	0	3,000,000	0
現物寄付金	10,011,185	14,484,302	9,843,198	11,928,890	9,873,415
合 計	10,981,571	15,081,302	12,670,198	17,587,890	14,229,415

※ 特別寄付金は一般資金と区分し、学園の教育施設設備特定資産に積み立て管理しています。

※ 本学園は、文部科学省から寄付金募集について「特定公益増進法人であることの証明書」及び「税額控除に係る証明書」の交付を受けており、本学園に対する寄付金は、税制上の優遇措置を受けることができます。